

タイ政府機関 MOAC、GISTA と今後の MOU 活動について協議

2019年9月16日、農学研究院・ビークルロボティクス研究室の野口伸教授・岡本博史准教授と大学力強化推進本部の古畑真美 URA は、タイ・バンコク市のタイ農業協同組合省（MOAC; Ministry of Agriculture and Cooperatives）を訪問しました。

本学は、昨年（2018年）、タイ政府機関である MOAC 及び GISTA（タイ地理情報・宇宙技術開発局）と覚書（MOU）を締結し、スマート農業技術に関する技術供与や人材育成に関する協力関係を築いています。

今回の訪問では、MOAC 側のカウンターパートであるワラポン総括監察官らと会談し、MOU に関する今後の活動方針について協議を行いました。

会談では、

- ・ タイ政府技術職員の本学におけるスマート農業技術に関する短期研修の受入れ
 - ・ タイ政府職員の本学大学院への留学
 - ・ タイ王室・実証農場での本学スマート農業技術のデモンストレーション、など
- について協議が行われました。

本 MOU の活動は、我が国の人工衛星システムを用いた農業技術の輸出等による対外戦略の一環として、日本政府や産業界からも期待されています。

現地では、在タイ日本国大使館の農林水産業担当官及び、ICT 政策、科学技術・イノベーション政策担当官も同席しました。

その後、一行は、バンコク市内にある国際協力機構（JICA）タイ事務所を訪問し、本 MOU 活動に関する JICA の協力・支援を要請しました。

本学が研究開発を進めるスマート農業技術が、我が国の一次産業と類似の問題を抱える世界の国々の課題解決に貢献することが期待されます。

【背景】

ロバスト農林水産工学国際連携研究教育拠点（以下、ロバスト拠点）は、自動走行トラクターや、遠隔で農地や作物の育成状況を計測するシステムなど、我が国が打ち上げた測位衛星「みちびき」などを活用する次世代の農業技術の研究開発を進めています。

タイでは、就業者の約 40% が農業に従事する一方、GDP（国内総生産）は 12% にとどまり、農家の高齢化も進んでいるため、生産性の向上が課題となっています。

タイ農業組合省（MOAC）及びタイ地理情報宇宙開発局（GISTDA）は、2 度に渡って本学に視察団を派遣しました（2017 年 6 月・9 月）。そして、第一次産業の技術革新に取り組

む本学の研究開発に感銘を受け、本学に対して協力関係を依頼し、MOU の締結に至りました。

これまでロバスト拠点が中心となってタイ政府側と協議を重ね、タイ試験農場キャサバ畑での移植作業（2017年12月）や GISDA の GNSS イノベーションセンター開設式における自動走行トラクターのデモンストレーション（2018年1月）なども行っています。



会談の様子



タイ MOAC と GISTDA の職員と

(文責：URA ステーション 古畑 真美)